



天文資料

2020年 10月号

令和2年度 第7号 (10月号)

令和2年9月26日

発行：佐世保市少年科学館
佐世保市少年科学館



<10月の星空は3つの惑星に注目！ 満月も2回あります！>

9月上旬は大型の台風が続げざまに通過し、各地に大きな被害をもたらしました。しかし、気象衛星をはじめとする気象観測施設からの情報等に基づき、多くの方が命を守る行動をとられたのではないのでしょうか。もうしばらく台風シーズンが続きますので、今後の気象情報にもご注意ください。

それでは10月の星空について解説いたします。

10月の星空は、まだ高い場所に夏の夏の大三角が見えるため夏の名残が感じられますが、南の空には「みなみのうお座」の1等星フォーマルハウトがあるのみの寂しい空で・・・と、例年ですとそう書くのですが、今年少し様子が違います。それは、南の空に-2等級で金色に輝く木星と、0等級で白く輝く土星、東の空に-2等級で赤く輝く火星が見えるからです。3つの惑星がすべて



+ 天頂

南

国立天文台 HP より

見える時間帯はなかなか迫力がありますので、秋の涼風に吹かれながら、ぜひ夜空を見上げてください。(風邪をひかれないように) 特に火星は6日に最接近を迎え、-2.6等まで明るくなりますので注目してください。(9/13撮影 ⇒)



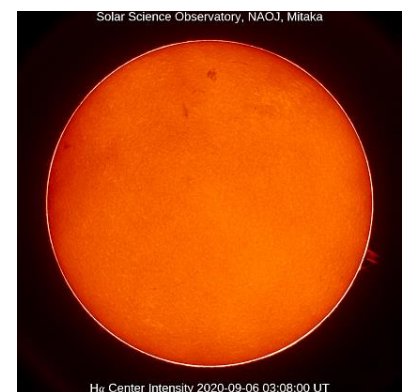
10月は満月が2回あります。1回目は「中秋の名月(1日)」の翌日になる2日、2回目は31日です。満月から満月までの間隔は29日あまりですので、ひと月に満月が2回あることはあるのですが、めったにないことです。2回目の満月はブルームーンとも呼ばれています。(特に青い月になるわけではありません) なお、31日の満月は「今年最小の満月」になります。

星座はみずがめ座をご紹介します。ペガサス座にある秋の四辺形とみなみのうお座のフォーマルハウトの間に「三ツ矢」の形に集まった4つの星があります。(上図の丸の部分) これを中心に傘を広げるように星をつないでいくと大体の姿が見えてきます。かなり大きな星座ですので、暗い夜空に出会う機会があれば、ぜひ星をたどってみてください。

<太陽活動が新しい周期に入りました>

太陽黒点の数が2019年12月に極小になり、この時を境に太陽活動の新しい周期(第25周期)が始まりました。太陽活動は、活発な時期と低調な時期がかわるがわる(おおむね11年)訪れていますが、ここ数年は低調な活動が続いていました。新しい周期が始まったことで、今後は太陽の極大に向けて活動が年々活発になり、宇宙飛行士や人工衛星運用、無線通信に害を及ぼしうるフレアや太陽からの物質噴出(コロナ質量放出)の発生も増えていくと予想されます。

将来の太陽活動は、どのように推移していくのでしょうか? 太陽活動が低下すると周期が長くなる傾向があるとわかっています。太陽活動が地球の気候変動に影響している可能性も議論されていることから、新たに始まった周期が実際にどうなるか注目されます。(国立天文台 太陽観測科学プロジェクト トピックスより抜粋)



↑ 9月6日の太陽像